

第61回企画展

入場無料

「文化の森の30年」展

日付 令和2年10月27日(火)～
令和3年1月24日(日)

場所 徳島県立文書館 2階展示室



文化の森総合公園
徳島県立文書館
Tokushima Prefectural Archives



〒770-8070 徳島市八万町向寺山
Tel.088-668-3700 / Fax.088-668-7199
<https://www.archive.bunmori.tokushima.jp>

開館時間 午前9時30分～午後5時
休館日 毎週月曜日・毎月第3木曜日(祝日の場合は翌日)
年末年始(12月28日～1月4日)

展示解説

担当職員によるやさしい解説
11月3日 木・12月5日 土・1月14日 木
時間 / 13:30～
会場 / 文書館2階 講座室・展示室

ごあいさつ

徳島県立文化の森総合公園は、図書館・博物館・近代美術館・文書館、そしてそれらの各館を統合する文化情報コア（現在の二十一世紀館）という本県の中核的な文化施設が一堂に会した総合公園として、平成二年十一月三日に開園しました。さらに、開園二十周年の平成二十二年十一月三日には鳥居龍藏記念博物館も開館し、現在の六館体制になりました。

各館は、それぞれの特性を活かして、三十年にわたって徳島県の歴史や民俗の掘り起こし、先人の業績の顕彰、史資料の収集・保存・活用に取り組み、県民の文化活動を支援してまいりました。また、各館では時宜にかなった企画展を構想したり、各種講座を通じて県民の皆さまと「徳島の魅力」を探る努力を重ねてまいりました。文化の森各館の取組にご理解をいただき、ご利用いただいた方々に深く感謝申し上げます。

今回の企画展は、文化の森が構想されたところから建設工事の様子、そしてその後の動きなど、これまでの三十年の歩みを振り返ることができる構成です。展示を通して次代に資する道しるべを得ることを目的に企画いたしました。ぜひ、この機会に文化の森が歩んだ三十年の道のりを想起していただけましたら幸いです。

末尾ながら、企画展の開催にあたり、ご協力いただきました関係の皆さまに心より感謝申し上げます。

令和二年十月二十七日

徳島県立文書館長 石尾 和仁

西暦

行事

昭和55年 文化の森構想発表

昭和57年 建設予定地を八万町向寺山と発表

昭和58年 文化の森総合公園事業 建設大臣認可

昭和60年 文化の森総合公園 起工式挙行

昭和61年 県知事 現県庁舎を活用し文書館建設を明言

昭和62年 各施設の建設工事着手

平成元年 文化の森シンボルマーク決定発表 1

平成2年 文化の森総合公園文化施設条例等施行
各施設新棟にて開館準備

11月3日 文化の森総合公園オープン 2

1 「開館記念展 徳島県の成立―藩から県へ」 3

2 「開館記念展 ピカソと日本」 4

3 徳島県文化情報システム（愛称COMET）稼働開始

4 徳島の古文書を読む会 結成 5

5 「開館記念 里帰り文化財名品展」

6 「現代美術'91素材はいるる展」

7 文化の森通信「STEM（システム）」創刊
〈世界〉湾岸戦争勃発

8 「第5回企画展 県庁の変遷」

9 「文化の森紹介展（移動展）池田町よりスタート」

10 徳島県立近代美術館との交換展を相互開催

11 「甲虫の世界」

12 「海野十三資料展」

13 「第5回資料紹介展 戦中戦後の紙芝居」

14 「第6回資料紹介展 黎明期の医学書
―古川家文書―」

15 「東四国国体スポーツ芸術 阿波讃岐風景画展」

16 障害者への郵送貸出サービス開始



徳島県文化の森総合公園
Tokushima Bunko-no-Mori Park



文化の森総合公園の構想と計画

文化の森総合公園は、置県百年を経た徳島県の次の二世紀がより輝いたものになるよう「百年のモニュメント」として、昭和五十一年に構想された。「文化の森建設基本構想」には、『文化の森は来たるべき二十一世紀を見つめ、心の豊かさを求める県民の新しいふるさとづくり・シンボルづくりである。限りない未来に向かって八十余万県民の文化の高まり、広がり、その中核となる施設である』とある。「文化の森」誕生までの軌跡を、県立文書館に収蔵された公文書から見てみよう。

まず徳島県は「文化の森」構想が浮上した昭和五十五年八月に、有識者等で構成された『文化の森懇話会』を発足させた。この懇話会では ①文化の森構想 ②文化問題の位置づけ ③本県文化の特質と課題 ④文化振興の基本的な考え方 ⑤文化振興の担い手 ⑥文化を振興するためにという六つのテーマで協議を重ね、昭和五十六年二月、五回目の懇話会でまとめ、報告書を提出している。『文化の森懇話会』は、『文化行政懇話会』に引き継がれ、その考えは「文化の森」推進の基軸となった。昭和五十七年三月県議会定例会所信表明において、知事が「文化の森」を徳島市八万町向寺山に建設することを明らかにし、県民に広く周知された。

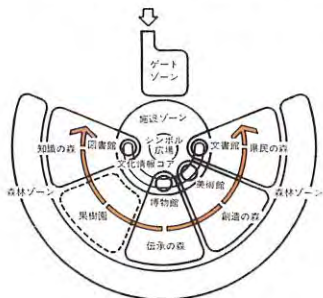
昭和五十七年九月の「徳島県文化の森総合公園」基本計画では、約四十ヘクタールの丘陵地に、自然と文化施設を一体的に配置する形で、都市計画法による総合公園として整備をすすめると書かれている。この基本計画にはまず、文化情報コア

(二十一世紀館)構想がある。最新の情報通信システムを利用し、幅広い文化情報を提供する県下のネットワークの中心施設として、徳島県全体の文化活動を先導する役割を果たすとある。また図書館・博物館・美術館それぞれの文化施設間の機能的な結びつきを強化し、単独で持ち得ない機能を持たせ、文化の持つ多様な領域を横断する新しい創造的活動を行うことを記す。

一方、文化施設と公園のあり方は、従来の公園の中に文化施設を配置するという考え方をもう一歩進め、文化施設それぞれに知識の森、伝承の森、創造の森ゾーンを配置し、文化施設と公園とを積極的に関連付ける事で新しい総合公園の形を作る、と書かれている。都市公園と各文化施設が深いかかわりを持ち、同一のテーマに、イベントを開催するといった独自性を持つ基本理念を示している。

こうした計画・理念のもと昭和六十二年八月に起工式が行われ、昭和六十二年七月には各施設の建設工事に着手している(県立文書館は翌年着工)。構想から十年。「徳島

県文化の森総合公園」は平成二年十一月三日にオープンを迎えたのである。



文化の森での物語性の展開

▲「徳島県文化の森総合公園 計画のあらいまじり」より文化の森のテーマ公園に対して開かれた文化施設

〔日本〕皇太子徳仁親王と小和田雅子さまご結婚

〔文〕第8回企画展 近世小松島商人の蔵書

〔博〕四国初勝浦町でイグアノドン科の歯化石の発見

〔美〕「移動展 美術館がやってきた」協町よりスタート

〔共〕開園5周年記念事業テーマ「戦後50年をみつめて」

〔文〕5周年記念展 徳島の復興

〔博〕5周年記念 戦争から豊かな未来へ

〔美〕開館5周年記念 日伯友好100周年

〔奇〕「奇跡のコレクション」サンパウロ美術館名品展

〔図〕県下の市町村立図書館とのオンライン業務開始

〔21〕日本ブラジル友好100周年

ワールドディスプレイセミナーブラジレイラブラジルを体感する1週間

〔日本〕阪神・淡路大震災

〔徳島〕丸新百貨店 開店61年の歴史に幕

〔文〕第11回企画展 江戸時代人の楽しみ旅・芝居・俳句

〔博〕銅鐸の美

〔美〕徳島の作家 山下菊二展

〔21〕STEM(ステム)に替わり、文化の森から創刊

〔文〕第14回企画展 堺屋弥蔵人と暮らし

〔博〕外務省長期青年招聘事業ミヤンマー研修生受入

〔21〕「ひとすまじまじ」過去に学ぶ住まいの知恵

〔文〕第16回企画展 徳川慶喜と蜂須賀家

慶喜・娘への手紙

〔美〕菊畑茂久馬・1983-1998 天へ、海へ

〔博〕県民参加による徳島県内のメダカ生息調査

〔美〕二原有徳・版の世界生成するマチエール

〔図〕神戸ー鳴門ルート全通記念事業 橋と文化

〔21〕運かなる太陽の国 エジプト国立レタ民族芸能団

〔徳島〕明石海峡大橋 開通 徳島と本州が直結

1998(平成10)年

1997(平成9)年

1996(平成8)年

1995(平成7)年

1994(平成6)年



立川霧から見つかったイグアノドン科の恐竜の歯の化石(歯石中央の黒い部分)。スケールは1cm。

文化の森建設工事の記録写真

文書館には公文書・行政資料の移管を受けた文化の森建設事務局の資料が多数残されている。その中には、昭和六十二（一九八七）年十月八日の基礎工事開始から完成に至る、建設工事

の記録写真がアルバムで七十冊ほど残されている。工事の過程を淡々と撮影した写真だが、今では文化の森建設に関する貴重な歴史資料となっている。



▲1987(昭和62)年12月4日 文書館南側より
文書館の建設地の造成工事中。文書館の南側には、現在と同じように山の水を流す水路が形作られている。立体駐車場にはプレハブの事務所が建ち並び、本格的な工事を進めていく準備が整えられた。



▲1988(昭和63)年3月3日 図書館東側より
図書館の土地造成工事が終了した頃。土をかなり削り取り、階段状に土地を造成している。



▲1989(平成元)年8月7日 三館棟北側より
三館棟工事で活躍をしていた巨大なクレーンを解体撤去している。建築工事はほぼ終了し、内装・外装工事を残すのみとなった。

文書館と旧県庁

文化の森の中で一番奥にある重厚な建造物、それが文書館である。レンガ色のタイルで覆われた外壁は、文化の森の緑に映え独特の空間を生み出している。

文書館は、県の条例で「徳島県の歴史的・文化的な価値のある公文書・古文書・行政資料その他の資料を、収集し保存し、県民の利用に供すること」と定められているとあり、県のアイデンティティとも言える歴史資料を、現在三十万点を超え所蔵する機関となっている。所蔵資料から構成される企画展や、古文書講座などの各種講座も盛んである。

文書館の大きな個性である外観は、昭和五年に建設された旧県庁の一部を移築したことにある。徳島市内は、昭和二十年

七月四日の空襲で歴史的な街並の多くを失った。旧県庁は貴重な焼け残りの建造物であり、街のシンボルのひとつであった。昭和六十一年一月四日、当初文化の森総合公園の計画に無かった歴史資料を収蔵する文書館の建設を知事が発表した。同年二月二日には、旧県庁の建物が保存を望む人々が手をつないだ輪で囲まれた。歴史的建造物には、人を引き付ける魅力がある。

文化の森に移築されて三十年を超えた。風格ある外観は、文化の森の一つの顔となっている。建物に負けない活動を今後も積み重ねていきたい。



▲旧県庁(現県庁の西側、解体直前)

2004(平成16)年

- 博 「サメの世界」
- 美 とくしま近美こども鑑賞クラブ開始
- 文 特別企画展 阿波の人形浄瑠璃
- 三好和義写真展 巡る楽園・四国八十八カ所から高野山へ

2003(平成15)年

- 文 第27回企画展 褒められた人々 江戸時代阿波の豪族
- 美 美術館ボランティアを導く
- 博 「アンモナイトのすべて」

2002(平成14)年

- 文 第25回企画展 近世社会を創出した文書 検地帳
- 美 学校と美術館を結ぶ
- 鑑賞教育推進プロジェクト開始
- 博 「海道をゆく黒潮のはこんだもの」
- 日本初の日朝首脳会談 拉致問題認め5人帰国

2001(平成13)年

- 文 第22回企画展 阿波の自由民権運動
- 美 「自然を見つめる作家たち 現代日本の自然表現と伝統」
- 博 楠コレクション約3000点受入れ
- 世界 米国同時多発テロ事件

2000(平成12)年

- 文 開館10周年記念特別展 北海道開拓と徳島の「人びと」
- 共 開館10周年記念企画展 世紀末大博覧会
- 博 博物館と学校との連携に関する研究会 設置
- 美 「近代徳島の美術家列伝 明治から第二次世界大戦まで」

1999(平成11)年

- 文 公文書の閲覧開始
- 博 「新発見 考古速報展 発見された日本列島'99」
- 美 「日本近代彫像入門 萩原守衛と朝倉文夫展」
- 英国女王陛下の近衛軍楽隊パレード&コンサート
- 徳島 阿波おどり会館が開館

西暦

行事



「戦争花嫁」の一場面



史料整理からの広がり (梅林家文書)

日中戦争勃発後間もない昭和十二(一九三七)年八月、中国揚州で徳島出身の海軍パイロット梅林孝次が戦死した。海軍は「墜落する機上からハシカチを振って戦友に別れを告げた勇士」として発表。ラジオや新聞が大々的に取り上げ、映画やレコードが次々と製作されるなど、彼は一躍「空の軍神」として喧伝された。

平成十九年、徳島県立文書館は梅林家から関係文書を二括して寄託を受け、整理の結果二千点を超える資料を確認。同二十二年に一般利用者への閲覧に供するとともに、第四十回企画展「軍神とその時代―梅林孝次関係資料から―」を開催

文化の森の資料収集活動

文化の森総合公園は理念の中で、「自然・歴史・民俗・芸術などさまざまな分野に関わる徳島県の総合的な文化の中核として相互利用や一体利用が可能」となることを求めている。各館は、別々の構想や計画を持ち仕事を進めながら、有機的な連携を図ることが求められている。相互利用や一体利用は、目に見える催し物に限ることはない。各館の活動を支える根本的な資料収集活動にも顕れている。

徳島県立図書館は、県内の中核図書館として幅広い選書を行っているが、特別な選書に「徳島の橋」がある。これは、徳島の母なる川である吉野川に、「橋の博物館」といわれるほど多様な橋が架けられていることを理由としている。なるほど、祖谷のかずら橋からしらすき大橋まで、各時代の技術の粋を集めた橋を今に見ることが出来る。

徳島の特徴の一つとも言える「橋」の資料収集は図書館に限らない。博物館や美術館には橋を描いた日本画や西洋画が多数集められているし、文書館には橋に関わる古文書や設計図画

してその概要を紹介した。梅林家文書には当時の梅林

関係の新聞記事約

三百点のスクラッ

プ、海軍やマスコミ

など関係諸機関からの文書、全国から寄せられた

多数のファンレター」などが含まれている。そこ

からは、一人の若者が「軍神」に祭り上げられ、

学校教育や社会教育の場で利用されていく過程

が読み取れる。日本が戦争へとひた走っていく時代

を研究する上での貴重な歴史的資料と言える。



▲操縦席の梅林孝次

建設時のパンフレットなどがある。文化の森総合公園を訪れることによつて、多様な「徳島の橋」に触れることができる。



▲文化の森の玄関口圃瀬川に架かる文化の森橋

〔徳島〕平成の大合併始まる 県内50市町村が24市町村に

〔ナト〕映画祭とCIE教育映画とともに

蘇るあの時代」

〔文化の森開園15周年記念企画展

ふるさと再発見―15の人・もの・場所―

〔博〕ボランティア企画型新イベント

博物館Vキングダム スタート

〔美〕河野太郎遺族より住家資料等一括寄贈

〔徳島〕アザラシ「ナカちゃん」那賀川町に住民登録

〔特別企画展 庚午事変の群像〕

〔徳島県立図書館サービス向上目標 策定

〔博〕「世界の種と美」

〔美〕華麗なる木版画の世界 吹田文明展

〔文〕第33回企画展 村の公文書 書庫からみえた

神山のくらし

〔博〕「ミネラルズ―不思議な、きれいな、そして意外に

身近な鉱山物の世界―

〔美〕日本画―和紙の魅力を探る

〔徳島〕映画「眉山」公開 文書館もロケ地に

〔文〕古文書補修ボランティア養成講座 スタート

〔博〕博物館友の会行事が発展し

「八万町の昔を探ろう」から地域をプロデュース

するプロジェクト、スタート

〔美〕大正ロマン昭和モダン展 竹久夢二・高島華宵と

その時代

〔徳島〕第一回とくしまマラソンが開催

〔世界〕リーマン・ブラザーズ経営破綻 世界金融危機へ

〔文〕「特別企画展 芭蕉をめざした男 酒井弥蔵の旅日記

〔第38回企画展 写真と文書でみる

徳島工業高等学校史

〔博〕「生誕200年 守住貞魚 御絵師・好古家・

帝室技芸員」



ナト映画



17



18



19



20



22

鳥居龍藏記念博物館

鳥居龍藏（一八七〇—一九五三）は徳島市出身の人類学者考古学者で、徳島市城山貝塚をはじめ北海道から沖縄までの国内調査はもとより、台湾・朝鮮半島・西南中国・中国東北部・シベリア・サハリン・千島列島など東アジア各地で学術調査をし、日本人の起源を追い求めた。

その鳥居龍藏の業績を顕彰するため、昭和四十年に鳴門市撫養町の妙見山に県立鳥居記念博物館が建てられたが、施設の老朽化やバリアフリー対応の困難さ、そして資料保存の観点から、平成十六年度



▲鳥居龍藏記念博物館開館セレモニー

に県による「公の施設の見直し」の検討の結果、文化の森総合公園に移転することが決定された。

そして、平成二十二年十二月三日、文化の森総合公園開設二十周年記念日に合わせて、新しく県立鳥居龍藏記念博物館が開館した。展示室は

「鳥居龍藏が見たアジア」「鳥居龍藏の生涯」「鳥居龍藏に学ぶ」の三室で構成されている。開館後は、「鳥居龍藏—世界に広がる知の遺産—」

など毎年企画展を開催するとともに、国内外の研究者と連携して鳥居龍藏の業績を調査研究している。

調査研究している。

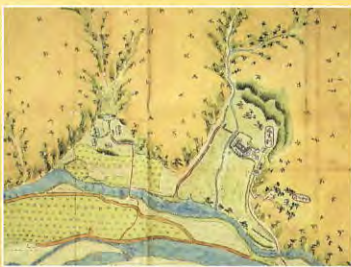


▲第1展示室の床に広がる調査地域の地図

地域の中の文化の森

文化の森総合公園は、徳島市八万町向寺山にある。八万町はもともと城下町徳島の南部の下八万村で、城下町西部の眉山と四国山地の北東端にあたる法花谷山・寺山の谷筋にあたる。村の中央に園瀬川、冷田川が流れ、平地が広いため市内でも屈指の住宅地である。八万町の南部に位置する文化の森総合公園の付近は、江戸時代に家老長谷川家の別邸延生軒が置かれた場所であり、もともと風光明媚な場所として知られていた。徳島県教育委員会は、公園建設の直前延生軒跡地などの発掘調査を行い昭和六十二年に報告書を作成している。

徳島県立博物館友の会は、平成十六年から五年間「八万の昔を探ろう」というフィールドワークを積み重ね、その成果を平成二十年度文化庁芸術拠点形成事業の一環として「八万町の昔を探ろう」ガイドブックを作り上げている。八万南小学校四年



▲延生軒（文化の森総合公園の位置）「下八万村絵図（分間図部分）」徳島県立図書館所蔵

生の調べ学習の成果などとともに、六つのエリア別に現在の地図と江戸時代の絵図を並べた上で石像物、寺社、伝説、史跡などについて写真を交えて解説しており、無理なく歴史散歩を行える内容である。資料編には地域の古写真などもふんだんに盛り込まれており、地域の記録としての役割も果たしている。

文化の森総合公園は幅広い利用者を集めているが、かかわりの多い利用者は地域の人々である。地域の中にあるという視点を忘れてはならない。

西暦

行事

- | (平成27)年 | 2014(平成26)年 | 2013(平成25)年 | 2012(平成24)年 | 2011(平成23)年 | 2010(平成22)年 |
|--|--|---|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 博 [25周年記念 阿波木偶箱まわしの世界] 博 [25周年セレモニー ヒトガタをめぐる冒険] 文 [特別企画展 終戦70周年記念 民衆が見た戦争] | <ul style="list-style-type: none"> 博 [四国霊場開創1200年記念 空海の足音 四国へんろ展] 文 [第48回企画展 岩村武勇収集資料展] 共 [食べる！文化の森フェスティバル] | <ul style="list-style-type: none"> 文 [第45回企画展 吉野川と阿波藍] 博 [天下の台所大坂と徳島—江戸時代の交流史—] 美 [戦争@ニッポン展] 文 [兵庫県立図書館交流展 兵庫発！ 震災・防災・減災] | <ul style="list-style-type: none"> 文 [逸品展 古文書の補修—方法と成果—] 鳥 [開館1周年記念企画展 鳥居龍藏の見た台湾] | <ul style="list-style-type: none"> 美 [アトムデビュー60周年・映画ブッダ公開記念 手塚治展] 文 [第42回企画展 阿波引礼の世界] 共 [文化の森 阿波踊りフェスタ] 文 [徳島ネットワーク図書館システム始まる] 美 [アトムデビュー60周年・映画ブッダ公開記念 手塚治展] | <ul style="list-style-type: none"> 文 [第39回企画展 文化の森誕生—] 文 [第40回企画展 軍神とその時代—梅村孝次関係資料から—] 共 [開園20周年記念展 軌跡—継続と蓄積—] 共 [開園20周年記念事業 スタジオジブリ・レイアウト展] 文 [移転して20年目 図書館入館者1千万人達成] 美 [チャレンジとくしま芸術祭 スタート] 鳥 [11月3日 鳥居龍藏記念博物館 移転開館] |



すべての人に芸術を「ユニバーサル・ミュージアム」への試み

文化の森の美術館や博物館は、障がい者や幼児・高齢者ならびに外国人など、すべての方々に親しく楽しめる施設運営ができていただろうか。また、参加しやすい場の提供をしてきただろうか。そう自問しながらユニバーサル（すべての人が楽しめる）を考え、改善策を実行に移している。

平成二十三年度に徳島県立近代美術館が行った手話通訳付き展示解説がそのきっかけとなった。見えない方・聞こえない方、子供たち、外国の方々を対象とした各種ワークショップの実施、分かりやすい施設内サインやウェブ配信などを進めることにより、多様な人が集う試みが続いている。

取組は今年で十年目をむかえる。博物館における

対話型展示や体験キ

ットの試作、近代美術館では鑑賞用プログラムの充実を図り、人々がコミュニケーションで展示を楽しむ提案などにより、多様な方々から共感を呼んでいる。

文書館でも講演の要約筆記や補聴設備の提供をはじめ、できることから実行してきた。これからも三十年の経験を活かし、当事者のご意見に耳を傾けながら試行錯誤していきたい。

「すべての人へ文化・芸術を「ユニバーサル・ミュージアム」があたりまえになる日まで、日々試みは続く。



▲身体を使って鑑賞する幼児たち

デジタルアーカイブズと文書館

「文書館」という施設の英訳は「アーカイブズ」である。単数形である「アーカイブ」は、重要と思われる記録を保存し、活用し、未来に伝えることを言う。記録は保存するだけでは意味は無い。活用されてこそ未来に伝えようとする推進力となる。

現在、全国でアーカイブのデジタル化が広く行われるようになった。デジタルカメラやスキャナーの普及により、フィルムを使った写真より原本複製のデジタル化がたやすく行えるようになった。さらにインターネットや検索機能を使えば、パソコンの前に座るだけでそれまででは考えられない幅広い情報を得られる世の中となった。

例えば、国文学研究資料館の蜂須賀家文書である。現在ホームページへアクセスを行えば、近世徳島の根本資料である徳島藩主蜂須賀家の古文書画像を、全て手に取るように見ることが出来る。そのことによって、歴史研究の手法は全く

変わるのではない。

デジタルアーカイブスがインターネットに載ると、誰でもアクセスが可能となり、複製がばらまかれることにより、価値が下がると思われるかもしれない。しかし、活用され広く知られることこそ原本の価値を上げる。「原本を見て確認しなければならぬ」と資料に昇華するのだ。

文書館は貴重な原本資料の宝庫である。今後より活用を深めるため、原本資料のデジタル化、インターネットを通じた公開の流れは止まらないだろう。



▲文書館デジタルアーカイブトップページ(徳島県立文書館)

2019(平成31・令和元年)	2018(平成30)年	2017(平成29)年	2016(平成28)年	2015
<p>〔世界〕WHO、新型コロナウイルスのパンデミック宣言</p> <p>〔博〕県立博物館60周年記念とくしよの恐竜時代</p> <p>〔文〕第57回企画展 新収蔵の古写真 ふりかえる昭和の徳島</p> <p>〔文〕第58回企画展 阿波へ異国船がやってきた</p> <p>〔美〕開園30周年 美人画の雪月花 四季とくらべ</p>	<p>〔逸品展〕山の産業</p> <p>〔文〕野外劇場すだちくんシアター リニューアルオープン</p> <p>〔展〕鳥居龍蔵・日本人の起源に迫る 一本山彦との交流</p> <p>〔美〕佐野洋子の世界展 100万回生きたわ</p> <p>〔美〕ユニバーサル美術館展</p>	<p>〔博〕ザ・モンスター〜海と陸のへんてこ生物たち〜</p> <p>〔文〕デジタルアート展示 チームラボ 徳島県文化の森</p> <p>〔文〕なつかしの図書館写真展 県立図書館の100年</p> <p>〔逸品展〕県報から見る徳島県の歴史</p>	<p>〔共〕文化の森6施設の入館者数 2千万人突破!</p> <p>〔世界〕国民投票により英国がEU離脱を選択</p> <p>〔博〕世界の恐竜大集合トクシマ恐竜展 (開催期間中の来場者が6万人を越え、企画展の最高記録更新)</p> <p>〔文〕特別企画展 記録資料に見る南海地震</p> <p>〔展〕開館5周年記念 鳥居龍蔵 世界に広がる知の遺産</p>	<p>〔美〕25周年記念 フィギュア展 ヒトガタ・人形・海洋堂</p>



展 示 資 料 一 覧

No.	表 題	年 代	資料番号
文化の森の構想と計画			
1	徳島県の文化振興のためにー「文化の森」懇親会の報告書ー	昭和 56(1981)年	G198903609
2	徳島県文化の森総合公園基本計画	昭和 57(1982)年	K200900484
3	文化の森推進本部及び幹事会	昭和 58(1983)年	K200910046
4	県民だより No.135 「育てよう文化の森」ポスター	昭和 58(1983)年	G200932359
5	徳島県文化の森総合公園リーフレット	昭和 60(1985)年	G199200258
6	徳島県文化の森総合公園ー計画のあらましー	昭和 61(1986)年	G198903618
7	文化の森基本構想関係綴	昭和 62(1987)年	文書館公文書
8	徳島県文化の森総合公園ー計画のあらましー	昭和 63(1988)年	G198903619
文化の森の開園			
9	文化の森シンボルマーク	昭和 63(1988)年	K200900863
10	文化の森建設事務局全体会議	平成 元(1989)年	K200900049
11	文化の森総合公園 開園ポスター	平成 2(1990)年	G201100415
12	文化の森開園記念文化の森総合公園パンフレット	平成 2(1990)年	G201100397
13	徳島新聞 文化の森特集	平成 2(1990)年	G201100415
14	文化の森駅開業記念乗車券	平成 2(1990)年	G201100376
活動の軌跡			
15	徳島県立文書館 展示図録	平成 2(1990)年～	
16	文化の森通信 STEM (ステム)	平成 2(1990)年～ 平成 7(1995)年	
17	文化の森通信 文化の森から	平成 8(1996)年～	
18	徳島県立博物館年報	平成 3(1991)年～	
19	徳島県立近代美術館ニュース	平成 2(1990)年～	
20	徳島県立図書館だより	昭和 58(1983)年～	
21	徳島県立鳥居記念博物館年報	平成 22(2010)年～	

※資料保存のため展示品の一部を替えることがあります。



文化の森西の園路から撮影した徳島市街、県立図書館の北側には園瀬川が流れる。
令和 2 年 10 月

担当職員によるやさしい展示解説

日時 / 11月3日(火)・12月5日(土)・1月14日(木)
午後1時30分から
会場 / 文書館 2階 講座室・展示室

第61回 企画展 「文化の森の30年」

令和2年10月27日 発行

編集・発行 ● 徳島県立文書館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山
電話 088-668-3700

印 刷 ● (協) 徳島印刷センター

〒770-8056 徳島市問屋町165番地
電話 088-625-0135